

**TechnoPharm 2010：医薬品、食品、化粧品のための先駆的見本市**

- ・進んだ知識とひらめき：展示ホールと多数のセミナーで得る豊富な情報
- ・インタビュー：ユルゲン・ヴェラーニ博士（Schuh & Co. コンプレキシテートマネジメント株式会社取締役役員）に聞く。

ニュルンベルク・エキシビジョン・センターは、間もなく先駆技術の展示会場へと変身する。医薬品、食品、化粧品分野の生命科学加工技術では欧州最大の見本市と言われる**TechnoPharm**が、約300の出展社と話題に富むサイドプログラムを用意して4月27日から29日まで開催される。

不況にも拘らず、医薬品業界は依然として、確固とした成長を続けている。そして成長は投資を呼ぶ。特により効率的な製造工程分野や装置分野への投資は活発で、この分野は、まさに**TechnoPharm**が得意としている分野だ。機械メーカーや装置メーカーはこの国際見本市で、無菌処理からパッケージングに至るまで最新の開発を展示する。**TechnoPharm**のユニークなセールスポイントは、ビジネスコンタクトの質の高さである。集中した3日間の会期は、出展者にも来場者にも、新たな良質のコンタクト、実りのある商談、そして確実な販売をもたらしてくれる。

**話題に富むサイドプログラム**

**TechnoPharm**のコンサルタントパートナーである国際製薬技術協会（APV）は、展示会と並行していくつかのセミナーとイベントを主催する。この中には複雑性や複雑性コストの削減、医薬品供給チェーンの再構築を検討する「複雑性管理の効率的な使用」に関するセミナーも含まれる。また専門誌「PROCESS」「PharmaTEC」「Schüttgut」は、**POWTECH/TechnoPharm**で3度目となるイノベーションアワードを5つのカテゴリーの中で最も革新的な装置や工程に対し授与する。

「ホール5に初めて『パッケージングとラベリング』の専用エリアができます」と語るのは、ニュルンベルクメッセの**TechnoPharm**見本市支配人、クラウディア・ハウザー・フォルラート氏である。出展者は専門誌「CHEMIE TECHNIK/Pharma+Food」が主催する特別ショーに製品を展示する。入場者はパッケージセキュリティの連続する作業工程を同時に見ることができる。「私どもは、非常に効率のよい3日間とクリーンルーム部門の最高の成果を楽しみにしております。魅力あるサイドプログラムと並行する**WCPT6 (PARTEC)**主催の微粒子技術世界会議によって充実した、コンパクトで適切な製品レンジの見本市は、ここ以外には見るできません」とフォルラート氏は言う。

## インタビュー：ユルゲン・ヴェラーニ博士に聞く

今年の TechnoPharm のサイドプログラムで注目すべき一つは CCN 東棟の会議センターで開催される「工程管理の今後」と題するシンポジウムである。2日にわたるこのイベントは、ヒューティッヒ出版社の専門誌「CHEMIE TECHINIK/Pharma+Food」と APV が主催する。ここでは専門家が工程管理の傾向や最善の業務、今後の戦略を討議する。講師陣の中には、以下のインタビューでシンポジウムのプログラムや製薬業界の今後についての洞察を語るドイツ・ファイザーの前代表取締役、ユルゲン・ヴェラーニ博士のような著名な講演者もいる。

ーヴェラーニ博士、このシンポジウムに参加すべき対象者はだれですか。

**ヴェ博士：**このシンポジウムは、医薬品、化学製品、OEM 生産者、工程の最適化や自動化、自動化ソリューションの供給者及びコンサルタントや資格、検証、エンジニアリングのサービス提供者を対象に構成されています。生産管理者、取締役、IT システムの販売責任者も、日常業務に関して必ずや多くを学ぶことができるでしょう。

ー工程管理について、医薬品やファインケミカル装置のオペレーターにとって特に必要なことがありますか。

**ヴェ博士：**製薬、食品、化粧品製造部門の自動化傾向は、絶えることなく続いていることが様々な調査で示しています。その主な理由は、自動化技術がコスト最適化プロジェクトにますます採用されているからです。シンポジウムではこの傾向を選びすぐった多数の例で紹介します。

ー今後、製薬業界はどの方向に展開していくのでしょうか。

**ヴェ博士：**私は以下の傾向があると見ています。規制条件の変更、顧客の新たな購買パターン、製品の革新、そして品揃えの複雑性管理の必要性です。また今や中国、インド、ブラジルよりもはるかに多くの「新興市場」を含めた市場の一層のグローバル化も重要です。そのため、世界的競争のさらなる熾烈化に直面し、そこでは工程の革新と技術が次々と決定的役割を演じるでしょう。

ーそのシナリオでは自動化や工程管理、情報技術はどこで使用されますか。

**ヴェ博士：**規制条件の変更については、主として食品や薬の管理による優れた生産業務に関する新しい理解であり、それは工程の経験的理解から工程の科学的理解へとパラダイム変化を引き起こしています。工程分析技術の用語を含むすべての技術はここに使用されています。工程の自動化によってサポートされるもう一つの問題は、継続的品質検査です。3つ目の分野は、検査（による品質）からデザインによる品質への傾向です。工程分析技術

の他に、ここでは特にシミュレーション技術が歴大な一連のテストに替わり使われます。

ー顧客の購買パターンと世界的な競争と革新はどうリンクするのでしょうか。

**ヴェ博士:** 今後、医療部門におけるコストへの圧力は増していくでしょう。それは市場でジェネリックのシェアが大きな役割を果たすことを意味します。これは製造コストの大幅な削減を余儀なくし、その一部は低賃金国への移転で解決されるでしょう。しかし、必ずしもそうする必要はありません。スリム思考の法則に基づいた価値の流れに関するどの基本的作業においても、「スリム化」の適用を生産地域だけに限るのではなく、支援機能にも拡大することを忘れてはなりません。ザンクト・ガレン大学応用科学科のトーマス・フリードリ教授は、この問題を集中的に研究し、その結果を「医薬品製造における勝ち組へのロードマップー内部硬直性の克服」と題した本にまとめました。フリードリ教授は「工程管理のための有望な戦略」について、シンポジウムでも講演します。

革新と技術は、新たな価値の流れをデザインして最適化する他に、新たに切り開いていく局面を前提にしています。ここでの焦点は、連続的な製造工程、モジュール工場のコンセプト、少量バッチ生産の採用にあります。セミナーの講演者でもあるクリスチャン・エーヴァース博士とヨルグ・モール博士は、「減量経営を超えた医薬供給チェーン」（優れた医薬供給チェーンービジョンから実践へ）と題した新刊の共著でこの問題に詳細に取り組みました。

未来に向けた挑戦は、少量バッチサイズ、モジュール生産システムと連続製造工程でしょう。このことはまた、統計的な品質管理がもはや要求に適合できないこと、そして冒頭で述べた連続的な品質テスト方式が重要性を増していることを明確に示しています。この関連で、新たな流通モデルについて考慮しなければならないでしょう。

ーこれら新しい要求に適合するには何が必要ですか

**ヴェ博士:** 要約しますと、TPM モジュールの採用、つまり、工場の効率を上げること、RFT、つまり、品質に集中することによって最初から物事を正し、エラーを避け、無駄のないように思考することによって、つまり、あらゆる種類の無駄を避け、そして価値の創造に集中することを含め、皆が作業手順の最適化に協力しなければならないということが言えます。すべての革新的可能性を用いた先駆的思考も必要です。これには工程管理、IT ソリューション、そしてシミュレーションモデルの革新的なコンセプトも含まれます。4月には多くの来場者と聴講者とエキサイティングな討論を期待しています。

ーヴェラーニ博士、どうもありがとうございました。4月にまたお目にかかれることを期待しております。

連絡先:

ニュルンベルクメッセ日本代表部  
ABC エンタープライズ株式会社内  
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7  
ルネ御苑プラザ 210  
TEL : 03-5369-6787  
FAX : 03-5369-7759  
E-mail:abc@inter.net